



教務部メッセージ

教務部から生徒のみなさんへのメッセージです。しっかり読んで、残り3か月の学校生活に活かしましょう。

「感謝すること」について

私の小学生の子どもは、ゲームセンターが好きでたまに行くのですが、遊ぶお金を渡しても、「ありがとう」とすぐ言わず、欲しいものを買ってもらっても、「何か言うことはないの?」と言わなければ「ありがとう」と言わないことも多々ありました。お友達にもそうなのか…心配になりました。

何かしてもらったら「ありがとう」と素直に言えるようにならなければいけませんし、人の親切も、お金も湯水のごとく湧き出るものではないということを理解してほしくて、実験的にお小遣いを月500円渡すことにしました。

お小遣いをもらうときは嬉しそうで、しっかりお礼も言えます。お小遣い帳を付け、自分の財布の中にどれだけのお金があるのか、少しでも考えるようになると、買い物の際にはお礼が言えるようになってきました。私自身も反省すべき点があります。「買ってもらうことが当たり前」、「人がなにかしてくれるのが当たり前」の生活では、感謝する気持ちなどわいてくるはずもないですよ。子どものしつけも試行錯誤の毎日です。お金のことに関わらず、何かしてもらったら「感謝する気持ち」を言葉にして伝えなければ、相手にはわかりません。「感謝する気持ち」は勝手に育つものではない、ということを実感したエピソードです。

ところで、「ありがとう」の反対の言葉は何だと思えますか? 大きい⇔小さい、暗い⇔明るい、ではありがとうの反対の言葉は? 「ありがとう」の語源は「有り難い」だと言われています。よくあることではないという意味からきています。めったにあることではないから、ありがとう。その反対はというと、「当たり前」です。当たり前と思うから、ありがとうという感謝の気持ちや言葉がでてこないのですね。あなたはどうですか?

親がご飯を作ってくれる、送り迎えをしてくれる、学校に通える、友達と過ごせる、このことを当たり前のことだと思っていないですか? 日頃から、人に「ありがとう」と言葉に出して伝えていますか?

なんでもないと思えることも、実は普通のことではないのです。

今この時代に、この場所で生まれ、ある程度不自由なく暮らせることを幸せだと感じるのは、普通に生活していると難しいです。私だってそうです。しかし、この時代でも、生きることもままならない人たちが世界には大勢います。

近くばかり見ては、感じることは難しいかもしれませんが、広い視野でみると、そんな些細な事でも「ありがたいな〜」と思えると思います。

感謝の気持ちを言葉できちんと伝えられる。そんな人になりたいし、みんなもそうあってほしいと思います。

